

WEEKLY SIGNAL

平成28年12月22日(木) 1355号

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	2016/12/26(月)	2016/12/27(火)	2016/12/28(水)	2016/12/29(木)	2016/12/30(金)	2017/1/4(水)	2017/1/5(木)	2017/1/6(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%					△0.080% ~ 0.001%		
銀行券	△3,100	△3,000	△3,000	△3,000	△900	+6,000	+6,000	+5,000
財政他	△14,900	+2,000	△2,000	△1,000	△300	ト	△2,000	△25,000
資金需給	不18,000	不1,000	不5,000	不4,000	不1,200	余6,000	余4,000	不20,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)					法人税・消費税・保険揚げ		
オペ期日	共通担保 △2,000 補完供給 +1,100 CP等買入 △700 社債等買入 △200					共通担保 △1,600		
オベスタート	共通担保 +2,700 ETF買入 +100	短国買入 +7,500 国債買入 +4,400						
(日本)	日銀金融政策決定会合の議事要旨(10/31-11/1) 日銀黒田総裁講演	消費者物価指数(CPI)全国11月、東京都区部12月 完全失業率(11月)	鉱工業生産指数(11月)	日銀金融政策決定会合の主な意見(12/19-12/20分)	基調的なインフレ率を補足するための指標	マネタリーベース(12月) 営業毎旬報告(12月31日現在) 保有する国債の銘柄別残高(日銀) 国庫短期証券の銘柄別残高(日銀)	需給ギャップと潜在成長率	
(海外)	米 株式・債券市場休場	日米首脳会談、安倍首相がオバマ大統領と真珠湾訪問 米 消費者信頼感指数(12月)	米 中古住宅販売成約指数(11月)	米 新規失業保険申請件数(前週分)		米 FOMC議事録(12/13-14会合分) 欧 消費者物価指数(12月速報)	米 ADP雇用統計(12月) 米 新規失業保険申請件数(前週分) 米 ISM非製造業景況指数(12月)	米 貿易収支(11月) 米 雇用統計(12月) 欧 ユーロ圏景況感指数(12月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.03 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.02 ~ 0.001

<インターバンク>

週の日銀当座預金残高は、週初325兆円台から始まり、その後大量償還等の要因で20日に331兆円台、国債買入・国庫短期証券買入の要因により21日には333兆円台まで増加。週末は333兆円1,100億円で越えた。無担保コールON物は、週初の出合いレンジは、△0.07~△0.025%となった。その後も徐々に金利水準は上昇し、4日積みとなる週末は△0.04~△0.02%を中心に取引された。先週に引き続いて、マクロ加算残高の基準比率の見直しによる調達余力の拡大等により、堅調な地合いとなった。ターム物は年内物を中心に△0.035~△0.025%での出合いが散見された。19~20日に実施された日銀金融政策決定会合では、政策の現状維持が決定された。景気に関し「緩やかな回復基調を続けている」との見方を維持する一方、前回の判断で示していた「輸出や生産面の鈍さ」との表現を削除。輸出、生産、個人消費を上方修正した。景気判断の引き上げは2015年5月の会合以来、約1年7カ月ぶりである。来週から再来週の予定は、国内では26日の黒田日銀総裁講演、27日の消費者物価指数、海外では4日の米FOMC議事要旨(12月13~14日会合分)、6日の米雇用統計等が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.400 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約10,600億円で、期落ち額約8,100億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。12月末の資金繰りが固まり始め、年越え物の大型案件が多く見られた。
a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。
現先レートの中心は、△0.100%~0.000%程度で推移した。
来週の期落ち額は27,200億円程度となっている。12月末単日の鉄鋼銘柄の期落ちは約6,500億円に達するが、大半は継続発行しないものとみられる。

<TDB>

21日に国庫短期証券3M第654回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.3952%(前回債△0.3925%)、平均落札レートは△0.4125%(同△0.4196%)と前回債と比べて利回りに変化は見られなかった。セカンダリーは3Mで△0.455%近辺の地合いとなっている。6Mは目立った出合いは見られず、1Yは△0.37%近辺の地合いだった。来月5日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.095%近辺の出合い、日銀金融政策決定会合では現状維持が決定され、22日受渡しも波乱無く通過した。短国3Mの発行日となる26日受渡しでは、△0.08%台の出合いが中心となったが、週末には今週2回目となる国庫短期証券買入オペがオファーされ△0.09%近辺まで小幅低下し越えた。
SC取引では10年345回債のビッドが週末に増加、△0.60%を超える出合いも一部見られた。他2年370・371回債、5年127・128・129回債、10年325・335・341・342・343・344回債、20年157・158回債、30年50・51・52回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。